

## 加西病院の事業改善と新病院建設への取組について



**深田 照明 議員**  
(21政会・加西ともに育つ会)

**問** コロナ感染症に対する病院の役割と今後の医療体制について。

**答** 第二種感染症指定病院として段階的にコロナ感染症病床を増やし、地域の陽性患者を受け入れて地域医療を守るリーダーシップを執ってきました。その結果、病床稼働率が向上し、コロナ感染症対策補助金の増加もあって令和2年度の経常収支は大きく改善しました。今後もコロナ感染症にしっかり対応しながら、継続的

で持続可能な地域医療の提供を目指し、回復期中心のサテライト病院を念頭に選択と集中を進めるとともに、小児、周産期など広域政策医療をしっかりと見極め、病院づくりに生かしたいと考えます。

**問** 事業改善の取組状況について。

**答** 北播磨総合医療センターや加古川中央市民病院等の拠点病院へ高度急性期の患者を紹介し、加西病院は回復期の患者を逆紹介で受け入れています。今後はさらに連携を強化して患者を増やし、病床稼働率の向上を目指します。また、令和5年度をめどに医師の給与体系を見直し、退職不補充など人員の適正化や委託業務の見直し等により支出を減らして経営改善を進めます。加えて、ガバナンスの強化を図るため、人材育成にも取り組んでいきます。

**問** 新病院建設に対する市民の意見とその取扱いについて。

**答** 昨年の市民ワークショップでは、通院や入院・在宅生活に関する総合相談窓口の充実、産後ケアの継続、リハビリや健診など予防医療の充実、ICT活用などの要望が多く、新病院建設に向け、取り入れるべきものは取り入れる方向で検討しています。

**問** 新病院建設について市民の関心を高める取組は。

**答** 市民に信頼され、安心して利用してもらえる病院づくりが重要と考え、市民の関心や応援を積極的に受け止めていくために新病院建設応援基金を設置しました。また、職員の意識改革に取り組むとともに、新病院建設の進捗状況を随時広報し、市民の関心を高めるよう努めます。

## 国保税の引下げについて



**井上 芳弘 議員**  
(日本共産党)

**問** 加入者の負担をできるだけ低く抑えることは自治体の責務と考えますが、加西市の国民健康保険の現状について、9月補正予算の段階での基金の状況をお尋ねします。

**答** 令和2年度決算で基金残高は6億3,200万円でした。今回の補正予算では9,000万円余りを基金へ積み立て、基金残高は7億円を超える状況です。

**問** 基金が積み上がっていく中、国保税引下げの方向も検討するという答弁をいただいた経緯があります。引下げに当たっての課題をお尋ねします。

**答** 基金はできるだけ市民の方に還元していきたいと考えていますが、平成30年度の国保改革により、県では国保保険料率の統一を目指して協議が進められており、市の置かれた状況は極めて流動的です。保険税の引下げは、保険料率の県下統一の影響、激変緩和措置の適用の有無、統一後の基金の適正な保有残高等、今後の状況や協議を注視しながら検討しなければならないと考えます。

**問** そのような課題も踏まえて、少なくとも何らかの引下げ方向で具体的に検討され、今後の運営協議会等でも検討内容につい

て具体的に示されていくと受け止めていいのか、お尋ねします。

**答** 市としましては、基金を活用して令和4年度に国保税を引き下げる方向で検討しています。具体的には令和3年中に国保運営協議会等で意見を伺い、事務を進めていきたいと考えます。

**意見** 事務的には困難な面があるかと思いますが、このようなコロナ禍の中で基金がこれまでになく積み上がっている状況です。これまでの協議会の中でも「これまで積み上げればいいのか。これを活用することはできないのか。」というような質問も委員の方からもありました。そのような意味で、市長からも適切な対応という指示があったと思います。ぜひ具体的に進めていただきますように、改めてお願いをしておきます。